

Q4

インスリンはいつ、どこに打つのでしょうか。

A 基本的には毎食前に食後の血糖値をおさえるためのインスリンを、そして寝る前に朝までゆっくり効かせるインスリンをおなかに打ちます。1日4回打ちます。しかし、インスリンの種類、回数、時間、量などはそれぞれの患者さんの糖尿病の状態によって変わってきます。

健康な人と比べて高い血糖は、血管を傷めて合併症を起こしてしまいます。そして、合併症が起きると同時に、高血糖のストレスがインスリンを分泌する膵臓のβ細胞をどんどん疲弊させ、インスリンを作る力を落としていきます。早めのインスリン療法で確実に血糖値を下げ、血管や膵臓の負担を軽くすることが、良い血糖コントロールを続け合併症を起こさないための秘訣です。

早めに療法をはじめ、
血糖値を下げていきます。

Q3

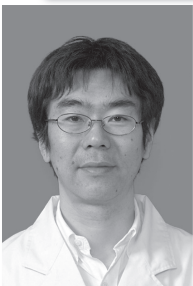
インスリンを打ち始めたら一生打ち続けるのでしょうか。

A そういう方も大勢いらっしゃいます。A 長期間高血糖状態が続いた方や、SU薬と言われている経口薬を長期間服用してきた方は、高血糖やSU薬のストレスで膵臓の傷みが強く、インスリン療法をずっと続けなければならないことが多いです。しかし、早めにインスリン療法を始めた場合、膵臓が高血糖のストレスから解放されるためインスリンを作る力が改善し、また、食事・運動療法に戻る方もおられます。

注) HbA1c

ヘモグロビンエーワンシーと読み、グリコヘモグロビンとも言います。赤血球のヘモグロビンにくっついたブドウ糖の量をみたものです。検査前1〜2ヶ月間の平均した血糖値の状態を示します。血糖値がいつも高いとHbA1c値(%)はどんどん上がっていきます。基準値は4.3〜5.8%(日本糖尿病学会の基準)です。

今月のドクター



岐阜市民病院
総合内科兼糖尿病・内分泌代謝科部長

山田 浩司氏

(やまだこうじ)

昭和57年山口大学医学部卒
昭和57年岐阜大学医学部第3内科入局
平成3年岐阜大学大学院医学研究科(生化学専攻)修了。平成4〜6年 米国南フロリダ大学留学。平成8年豊川市民病院内科。平成18年より現職。糖尿病が専門。



糖尿病で薬を飲んでいますが、症状はありませんが、先生からインスリン療法を勧められました。今回は糖尿病のインスリン治療を中心に専門医に相談に乗っていただきます。

インスリン療法って何ですか？

Q2

どのような糖尿病患者さんにインスリン療法が必要なのでしょうか。

A 血糖を下げるホルモンは身体の中にインスリンしかありません。ですから、身体に必要なだけのインスリンを作れない人は、足りない分だけインスリンを注射で補わなくてはなりません。また、インスリンを作ってはいますが効きがとても悪く、経口薬で血糖値がうまく下がらない人もインスリン療法が必要になってきます。

食事・運動療法を行い、いろいろ経口薬を使ってみても、HbA1c注)が7.0%以下にならない方はインスリン療法を考えてください。

Q1

症状がないので、今の治療で良いのではないのでしょうか。

A 糖尿病は全く症状のない状態から、意識障害をおこし死に至る状態まで様々です。たとえ症状がないとしても、健康な人より高い血糖にさらされている血管は少しずつ傷んでいきます。そしてやっかいな合併症をひきおこしてきます。

健康な人の空腹時の血糖値は60〜110mg/dl、食後上がっても150mg/dlくらいです。それよりも高い血糖が続くと合併症をおこしてくるのです。逆に言いますと、健康な人と同じ血糖値にしてしまえば、合併症の発症、進展を抑えることができます。

高い血糖値はインスリンを使ってでも早めに改善させ、合併症をおこさないようにしないといけません。

このアドバイス どうしたら...

糖尿病のQ&A

